

とやま虹の会から第11次・12次支援チーム派遣

5月はとやま虹の会より、2チームが宮城民医連の高齢者福祉施設「宮城の里」(仙台市)に支援に行きます。第11次支援チームとして5月9日(月)～14日(土)とやま虹の会：富賀見真一さん、末上松幸さんの2名。第12次支援チームとして5月16日(月)～20日(金)とやま虹の会：浜谷ひろみさん、新庄知子さん、國木愛美さんの3名が支援にいきます。

また5月以降の坂総合病院への人的支援は避難所の集約化や事業所の通常業務への復帰に伴い支援体制も縮小されます。東海北陸地協に毎日、医師1人、看護師2人、事務・その他1人の支援要請(東海北陸7県で分担して派遣する)がきています。またこれとは別に避難所訪問のため、全国から毎日リハビリ技術者2名(PT、OT、ST)の支援要請がきています。(全国の地協で分担)

第13次支援として現在のところ、5月26日(木)～30日(月)坂総合病院に3名(協立病院・松井医師、久保理学療法士、そして医療生協組合員の看護師1人)が支援に行く予定です。

第9次支援チーム栃折・高野さんの感想

～その2～



<仙台市長町地域訪問中の高野さん>

第9次支援チームで4月11日～16日まで支援に行かせていただきました。夢であってほしいと思った3月11日より毎日の震災の報道に、誰もが心を痛め、そして何かをしなくてはという思いにかられていると思います。

4月12日、拠点病院である坂総合病院の産科病棟に行き、生まれたばかりの赤ちゃんを見て、本当に心が癒されました。支援の毎日は、日常生活とはかけ離れていましたが、被さ被災されている人たちのことを思えばなんてことはありません。夜、窓から見える静寂な街並みと燈火、なんとも言えない寂寥感を感じる日々でした。

避難所で問診をとった4才の女児の母親が、きちんとつけていた母子手帳が津波でドロドロになってしまい、泣く泣く捨てたと。でもこの子が生きていることが一番いいと言っていました。以前助産師として働き、心を込めて記入していた母子手帳を思い出すと、涙がこみ上げてきました。夜、栃折りさんとその日に見聞きしたことを交流する中で、あらためて震災の悲惨さを強く感じてきました。

支援においては被災地と被災者の状況は、日々変化していきます。私たちの支援期間は避難生活が長期にわたるなか、2次被害が深刻になってきていました。とにかく今、必要なのは、避難所や壊れかけた自宅にいる人たちに、安心して体を休められ、温かい食べ物、入浴できるなど、人間の基本的生活ができるようにすることが急務だと思います。

しかし政府の対応の遅さは歯がゆいばかりです。避難所の状況把握も3割程度、仮設住宅の建設もいまだに455戸余、国会中継を聴いても苛立つことばかりです。と怒っていてもだめです。医療活動を通じて、どのように行政に働きかけていくか……。そして今、福島の問題を抱えた支援も重要となっています。

私はこの支援を通して、他職種の人達と関わり意見・発言を聞き、でしゃばらず、退きすぎず、押すところは押していく。そして一番大事な、いかに人生を真摯に生きているか、多くのことを学んできました。

今回、民医連を通し、看護師として支援に参加させていただけたこと、快く送り出してくれた家族、職場の人たちに感謝しています。そして1日も早い震災の復興を願ってやみません。

富山協立病院・南2階病棟 高野田真代

東日本大震災チャリティバザー

5月11日(水)10時～12時

富山協立病院自転車小屋前(雨天決行)

焼いもたべてね～



100g=100円

野菜も買ってね～



東日本大震災で、東北の7つの医療生協が被災し、今も懸命の復旧活動が続けられています。

全国から人的な支援が行われていますが、これからはますます募金活動も重要になってきます。

そこで、患者様・近隣の組合員さん・職員さんを対象に、チャリティバザーを企画しました。

支援の輪を広げる、元気のなる取組みのひとつです。

焼き芋、不用品、茨城・埼玉・千葉県の農民連さんの安心の野菜などを販売いたします。

ご協力をよろしくお願いいたします。

富山民医連 東日本大震災支援対策本部

お問い合わせは、組織部(441-8351)まで



富山協立病院「支援者」報告会

◆日時:5月17日(火)午後3時30分～4時

※田村有希医師の研修報告会の後に行います。

◆会場:富山協立病院・東別館3階会議室